

「官僚制ユートピア」  
D・グレーバー著 以文社 三五〇〇円

空飛ぶ自動車が、まだどこにもない!!  
ある世代以上の人なら、今から四、五十年前に描かれた二一世紀の予想図を覚えているだろう。そこに描かれたものがすべて実現しないまでも、よもや、今一切存在しないとは思わなかった筈だ。インターネットがある? そんなものは「超高速でアクセスできる図書館と郵便局とメールオーダーのカタログ」に過ぎない、とグレーバーは切つて捨てる。

なぜ、こうなってしまったのか?  
現代が、「全面的官僚制化」の時代だからだ。

超官僚制国家であったソ連が崩壊した後も、官僚制化の勢いは止まらない。コンピュータは、人びとの自由をではなく、官僚制化を促進したのだ。

次々に増殖していく規則・規制が、そして警察官の暴力が、人々の想像力を削ぎ取っていく。膨大な書類作成が、創意やイノベーションの余地を無くす。情報テクノロジーは労働者を負債の泥沼に引きずり込んだ。

どうすれば、ぼくたちは官僚制の暴力を逃れ、再び「夢の未来」を追うことが出来るのだろうか?

想像力を取り戻す、これしかない。  
典型的な官僚制国家であった古代ローマ帝国を範とした中世世界で生まれたフアンタジ―文学の伝統は、今なお民衆文化の底を流れ続けている。規則に支配されたゲームではなく、プレイを楽しむこと。それは、規制と暴力に封じ込められた革命への道でもある。

官僚制は、政治や役所の世界だけではなく私企業にもすつかり浸透し、ぼくらの想像力を蝕み続けている。(フ)